

## 2023年3月期決算発表 佐藤社長メッセージ

佐藤でございます。

前期は、資材高騰など、厳しい事業環境の中でも、2.7兆円の営業利益を確保することができました。

4月1日から新体制に経営継承が行われましたが、前期の決算の数字は豊田章男・前社長の14年にわたる取り組みによるところであり、トヨタをトップスピードで経営する中で経営継承が行われたことを改めて実感しております。

それゆえ、新体制は現在の基盤をもとに成長領域への戦略的取り組みに注力することができます。

豊田会長は社長就任時に、「お客様や社会が求めるものの変化に応じて絶えず変化し続けていくことが成長である」と言いました。  
まさに、それを体現した14年であったと思います。

豊田章男・前社長が会長となった今、新体制を支える側に回り、会長と社長がその時々で最適な役割分担をして同時に動く、新しいチーム経営を実践しています。

こうした環境を生かし、新体制では、スピード感のある経営に取り組んでまいります。

そのうえで、あらためて今後の経営についてお話し申し上げたいと思います。

私は、これからトヨタが目指すべき成長とは、自動車が多く産業と連携しながら付加価値を高めてモビリティ産業に転換していく未来をつくっていくことであると考えています。

その基盤が、カーボンニュートラルです。

トヨタは、2035年に、新車CO<sub>2</sub>排出量をグローバルで50%以上低減させていくことを目指しています。

その実現のためにマルチパスウェイという軸をブラさずに、地域にとって最適なソリューションを、スピードを上げて提供してまいります。

特に進展の速いBEVについては「2026年・150万台」を「基準」としてペースを定め、米国・中国を中心に、ラグジュアリーから小型車、商用車まで10モデルの投入を計画しています。

電池の供給については内製の生産能力の向上とパートナーとの連携によってスピーデ

ィに必要量を確保していきます。

そして、2026年に投入予定の新しいモデルでは、3つのプラットフォーム、すなわち、車台と、電子プラットフォームとソフトウェアプラットフォームのすべてを刷新し、BEV専用ならでの合理的構造により、新しい車両パッケージのモビリティの実現を目指します。

今後、新たな専任組織「BEVファクトリー」のもとで、取り組みを加速していき、秋のモビリティショーではそのコンセプトをお示ししたいと思います。

また、BEVと同時に水素社会の実現に向けた取り組みも加速してまいります。特に水素の消費量の大きい欧州や中国などで、FCEVを中心に、商用領域でのプロジェクトを進めてまいります。

さらには、パーソナルモビリティへの水素エネルギーの活用や水素をつくる・はこぶ・つかうのサイクルに着目し、タイでの社会実装など、社会インフラの整備に向けた活動も行ってまいります。

これらの取り組みを積極的に進めるためにも足元の稼ぐ力も高めてまいります。特に、2030年にかけて30%以上の市場成長が見込まれるアジア・新興国においてはハイブリッド車を軸に市場の成長を取り込み、収益基盤の強化をはかってまいります。

今後、モビリティ産業への転換を図るために、足元3兆円規模の研究開発費と設備投資をさらに増やしつつ、未来投資の比率を高め、持続的成長につなげてまいります。

ご清聴ありがとうございました。

以 上